

1月22日(金曜日)

ドル/円

冷静に材料を精査する日に

21日(木)の主な推移

ダウ平均株価

10389.88ドル
(-213.27ドル)

米長期金利
(10年債利回り)

3.5993%
(-0.0578%)

NY原油先物

76.08ドル
(-1.66ドル)

チャート: 30分足 21日(木)朝7時 ~ 22日(金)朝7時



※チャートは30分足 日本時間にて表示 ※左表は終値ベース、()は前日比
出所:外為どっとコム

①

11時に発表された中国の経済指標はおおむね市場予想よりも強い結果となったが、それについてのドル/円の反応は限定的なものに留まり、前日から続くユーロに対するドル高の流れを背景としたドル高・円安基調を継続する展開となった。

②

オバマ大統領が、議会で審議中の金融規制改革について、銀行の自己勘定トレーディングの運営やヘッジファンドなど投資会社の経営や投資をすることを禁じることを追加する、などと述べたことから、ダウ平均株価は急落し、米長期金利は大幅に低下した。これを受けてドル/円ではドル安・円高が急激に進行し、一時90.11円の安値をつけた。

上昇要因(ドル高・円安)

- ・米国経済の回復
- ・米長期金利の上昇
- ・米国の超低金利政策の長期化観測の後退
- ・日本の政局の混迷
- ・金融市場全体のドル売りムードの緩和
- ・日銀の追加資金供給
- ・日本政府による市場介入への警戒感
- ・日本の財政赤字への懸念

下落要因(ドル安・円高)

- ・米国の超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の下落
- ・米国経済の回復の鈍化
- ・外貨準備通貨としてのドル需要の減退
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり
- ・金融市場全体のドル売りムードの高まり

本日の見通し

本日の予想レンジ: 88.90-91.50円

本日は、昨日の金融市場の話題をさらった「金融規制改革」へのオバマ米大統領の提案の解釈や実効性を精査する一日になる見通し。

オバマ米大統領の提案によって、株安・商品安・長期金利低下となったが、為替相場におけるドルの動きはそれぞれの通貨に対してマチマチの動きになった。ただ、ドル/円については、米長期金利にかなり忠実に従ったと言える。本日は他に手掛かり材料となり得る経済イベントもないため、この話題が引き続き市場関係者の話題の中心となり、各金融商品が今後の方向性を模索する流れになるとみられるが、ドル/円は引き続き米長期金利の方向性に従うものと考えられる。

日足チャートを見ると、90.00円近辺は60日移動平均線によって下値を支えられている格好。本日、本格的にこのラインを下回って下げた場合は、ストップロス巻き込みながら昨年12月18日安値88.90円まで下げる可能性もあり得る。

本日の注目イベント

※注目度が高い順に「◎」「○」「無印」で表示 時間は「日本時間」

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表数値	市場予想
1/22(金)	—		特になし	—	—

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。また、※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com